

令和5年度 府中市立府中第一中学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第1学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	①「書くこと」の活動において苦手意識が高く、基本的な文章の書き方が身につけていない生徒がいる。 ②「話すこと」の活動において声の大きさや間、態度等の技術的なスキルに目標設定を置くが、話す内容や構成等の中身の充実がより一層求められる。 ③漢字や文法などの基礎知識が定着していない、苦手意識をもつ生徒がいる。	①作文のパターンを示したり、ICTを利用したりして、自分の思いや考えを文章化することに慣れさせ、自信をつけさせる。 ②ねらいを明確にし、話すことの活動の前段階である、スピーチメモや構成メモの指導を充実させる。 ③小テストを定期的実施したり、学習内容の振り返りを行ったりして知識を定着させる。		
数学	①授業では理解を示すが、定期考査になると学力に差が出ている。既習事項の定着に課題がある。 ②中学入学の時点で学力差がある。数字や文字が早く正確に書けないことから、計算をノートに書いて練習することができない。書く力が育っていないため、系統立てた学習ができない。	①自主的に取り組む課題(プリント・問題集)を与え、内容の理解を深め既習事項の定着を図る。また、評価の際には今後の改善点を伝え、継続的に取り組ませる。 ・テスト範囲を細かく分けた小テストを定期的実施し、自主学习をしやすいとする。また、わかる体験を数多くもたせ、学習する意欲につなげる。 ②基礎クラスでは基本問題を行う時間を確保する。発展クラスでは発展的な問題を取り組ませる。小テストでは基本・発展の問題を共に出し、理解度を確認させる。		
理科	①観察・実験をすることが目的になってしまい、得られる学びが浅くなってしまいがちである。 ②観察・実験を伴わない授業が単調になってしまい学習内容が定着しにくいことがある。 ③どこが分からないのか分からないという状態が積み重なって授業への意欲が低下してしまう生徒が出てしまう。	①観察・実験から何を学び取らせるのか、めあてを明確にすること。 ②観察・実験を伴わない授業においても、相談したり考えたことを伝えたりする活動を行わせること。 ③分からないところやできないところがどこかを考えさせる枠組みをつくること。		
社会	①資料、図、グラフの読み取りについて、着目すべき視点が不足している。 ②情報の整理能力に偏りがある。 ③小学校の既習事項の定着に偏りがある。	①授業の中で資料等の読み取りの時間を設ける。 ②授業や小テストに文章表現の問題を設けるとともに、思考ツールを用いた情報整理方法を紹介・使用する。 ③小学校の既習事項を反復する時間を授業の中に設ける。		
音楽	①パート毎など、集団で取り組む際に課題を共有したり、アドバイスし合ったりする姿勢に課題がある。 ②一部では変声など、表現活動に躊躇いのある生徒がみられる。	①目標や課題を明確にしながら指導・助言を行う。また、リーダーを育てながら、主体的に活動できるように授業を展開する。 ②成長に伴う声の変化や発声の知識などを授業に交えて配慮しながら歌唱指導を行う。		
美術	①用具等の適切な扱いの基礎的な学習をしていないため、丁寧に制作に取り組むことが出来ない。 ②発想や構想の能力の個人差が大きく、豊かな発想をすることが苦手な生徒が多い。 ③題材の内容が理解できていないこともあり、挑戦するなど、主体的に発展させた取り組みまで行きつけないことがある。	①中間指導に加えて、ICT機器を活用して用具の扱い方などについて詳しく説明して、丁寧に制作するための支援を行う。 ②グループワークやタブレットを活用することで、個人間の発想をつないだり共有したりすることで、発想の幅を広げる。 ③導入を丁寧にいき、題材のねらいを明確にした上で、過去の作品などを紹介して、挑戦的な取り組みに発展させる。		
技術	①普通教室に比べ、者が多く、生徒の気が散りがちになる。 ②個人で行う作業が多く、進度に個人差が出る。 ③一つの机に複数の生徒で学ぶ教室形態である。	①授業に関係のないものが目に入らないよう、棚等を作成し、学習環境の整備を行う。 ②チェック表や動画の配信を行い、個に応じた指導を充実させる。 ③特別教室のふさわしい活用方法を設定し、作業時の役割分担を明確化する。		
家庭	①作業の進度や実技の力に個人差があり、全体の指導に加え、個別のサポートが必要。 ②学習内容それぞれと生活をつながりが伝わりにくい。 ③特別教室となると助け合いや意見交流が活発になる一方、集中力が途切れる場面がみられる。	①全体に手順や指導する時間と作業する時間を分け、指示が滞らないように行う。作業の時間にサポートを行ったり、タブレットに動画や画像を載せて確認できるようにする。 ②生活での場面を紹介するだけでなく、実際に行ってもらったり、探す・見る機会を作る。 ③授業内容によって、特別教室と教室のふさわしい方を活用する。時間設定や役割分担をあらかじめ設定する。		
保健体育	①一般的に運動能力は高くない。取り組みは意欲的であるが、基礎体力を身につけていない生徒も多く見られる。	①補強運動の継続により基礎体力の向上に努めるとともに、各種目においてグルーピングを考え、生徒が主体的に協力し楽しく取り組めるように配慮する。		
外国語	①小学校で培ってきた単語や英語のフレーズをもとに、音と文字のつながりを大事にしたい。 ②繰り返し単語のつづりを定着させるべく、音読や小テストを定期的に行い、基礎力の定着を図っていきたい。	①ペアワークを引き続き継続し、グループワークやスピーチ活動などを取り入れ、どのような場面でキーフレーズを使用するのかを学び、表現の幅や考えを深められるようにし、生徒同士のコミュニケーション活動を増やすようにする。 ②小テストやノートまとめを継続して、基礎力の定着を徹底していく。 ・ICT機器を活用し、ALTへのメッセージ、各単元のプレゼンテーション、音読など、生徒自身が英語を使っていく状況を作り、意欲を高める工夫をする。 ・本時の目標を毎時間確認し、授業ごとに課題を達成できるよう支援していく。また、単元ごとに振り返りとまとめの授業を実施し、学んだことを振り返りながらどのように活用していくのか学べるようにする。		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和5年度 府中市立府中第一中学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第2学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	①「書くこと」の活動において苦手意識が高く、基本的な文章の書き方が定着していない生徒がいる。 ②「話すこと」の活動において声の大きさや間等の技術的なスキルの他、話す内容や構成等の中身の充実がより一層求められる。 ③漢字や文法などの基礎知識がしっかりと定着していない生徒がいる。	①ねらいを明確にし、目的意識をもって取り組ませる。 ②模範となる例を示す。また、発表後の自己評価や相互評価を行い、振り返りを大切にする。 ③小テストを定期的に行い、適切な支援を行う。		
数学	①授業内での基礎・基本的な学習についての理解度は高いが、定期考査等では点数の差が大きくなっている。 ②積極的に発言する生徒が固定されてしまっている。 ③提出物などの取り組みに差がでてきている。	①授業内でもできるだけ演習問題を解く時間を確保し、理解度の向上を図る。 ②発言しやすい問いを取り入れ、発言しやすい雰囲気をつくる。 ③採点基準を明確にし、B以上の評価になるように指導を行う。		
理科	①実験・観察の手順を追うだけになってしまい、目的意識を見失いがちである。 ②話し合い活動では論理的に考えようとする生徒がいる一方で、話を聞くだけになってしまう生徒がいる。 ③知識や技能がどの程度定着しているかの確認ができないまま、授業が進んでしまう。	①実験・観察での「ねらい」を明示する。予想の時間を確保し、目的意識をもって取り組ませる。 ②自分の考えをもってから話し合いを行い、必ず一人一回は発言できるよう方法を工夫する。 ③小テストや実技テスト等の頻度を増やし、生徒の習熟度を確保し、適切な支援を行う。		
社会	①地理では、資料を読み取り、それを文章にすることが苦手な生徒が多い。 ②歴史では、時代の特徴を捉え、それを文章にすることが苦手な生徒が多い。	①②地理も歴史も、プリントの課題やタブレットを使った学習において、自分で文章を考える機会を増やしていく。また、取り組み方も指導していく。		
音楽	①集中力に個人差があり、パート練習に協力して取り組むことや、技能向上の成果に課題がみられる。 ②声の響きを感じながら歌うことや、積極的に声を出すことに躊躇いがある生徒が多い。	①目標や課題設定を明確にししながら、成果を実感できるよう指導する。また、小集団での活動が円滑に進むように助言を行う。 ②発声に対して身近なイメージがもてるような声かけや、アプローチの仕方を工夫して歌唱表現を行う。		
美術	①丁寧に制作できるが、見直しをもって取り組むことが出来ず、結果的に焦って雑な仕上がりがりになってしまうことがある。 ②発想や構想したことを言語化したり、テーマに沿って解説したりすることを苦手とする生徒が多い。 ③主体的に挑戦したいと考えたことに技能が伴わず、挫折してしまうことがある。	①あらかじめ制作スケジュールを示すなどして見直しを持たせる。また、補習などを活用しながら丁寧な仕上がりを目指す。 ②ワークシートなどに言語化する際のポイントなどを明記し、机間指導の中で生徒自身の考えを整理するための支援をする。 ③具体的な制作方法や難しいと感じられるポイントをあらかじめ示し、実現可能な道筋をともに考える。		
技術	①普通教室に比べ、者が多く、生徒の気が散りがちになる。 ②個人で行う作業が多く、進度に個人差が出る。 ③一つの机に複数の生徒で学ぶ教室形態である。	①授業に関係ないものが目に入らないように、棚等を作成し、カバーする等を行う。 ②チェック表や動画の配信を行い、個に追う下準備をあらかじめ用意しておく。 ③準備、片付け・掃除等、班員での役割を明確させ、協力できる体制を整える。		
家庭	①生活経験に乏しく、基礎技能の定着に差がある ②班で分担する実習時には、作業量に個人差が出る。 ③個人で行う作業では、進度に個人差が出る。	①学習内容と実生活を結び付ける課題等を設定し、実際に経験する機会を増やす。 ②予め班員で話し合い、役割分担をさせる。 ③机間巡視で個別の声掛けに加え、タブレットで各自が必要な内容を確認できるよう準備する。		
保健体育	①運動に対する興味・関心の高い生徒と低い生徒の二極化。運動に消極的な生徒もいる。 ②全身持久力、投能力が低い生徒が多い。	①運動が苦手な生徒が主体的に学習できるように、自己の課題にじっくりと取り組める時間の確保や、グループやペアワークにより楽しさを見出せるようにしていく。 ②ゲーム的な要素を取り入れた、持続的な運動をウォーミングアップ等に取り入れていく。		
外国語	①家庭学習の習慣化と基礎学力の両面で個人差が大きくなってきている。 ②単語を覚えることは出来るが、覚えた単語を文の中で応用して使う力が弱い。 ③全体的に、英文を「書く」力が弱い。	①英語を覚えやすいように反復練習や学力の差が影響しない言語活動を工夫する。 ②ペアワークやグループワーク、スピーチなどの自己表現活動を通して、生徒が意欲的に他の生徒やALTとコミュニケーション活動ができるようにする。 ③学習方法を提示し、自主学習を促す。 ④単語のテストを定期的に行い、語彙力の強化を図る。 ⑤新しい構文をパターンとして理解させ、それを活用することで多くの生徒が文を「書く」ことができるようにする。 ⑥未習の文章に少しずつ慣れさせ、英問英答で内容を確認する等の習慣をつける。		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和5年度 府中市立府中第一中学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第3学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2 学期末	年度末
国語	①「聞くこと」の活動において、聞き取った内容や表現の仕方を評価しながら聞く力に課題がある。 ②「読むこと」において、文章を批判的に読んだり、構成や表現を評価しながら読む力に課題がある。 ③漢字や文法などの基礎知識がしっかりと定着していない生徒がいる。	①単元のねらいを明確にし、聞きながら評価する観点を決めるなどして、生徒が活動しやすいように手立てを設ける。 ②生徒の模範となる読みを、全体で共有して、批判的に読んだり、評価しながら読む考え方を身に付けさせる。 ③小テストを定期的に行い、適切な支援を行う。		
数学	①習熟度別に、それぞれのクラスにあったレベルの授業をしているが、計算問題の定着には課題がある。新しい公式を学習すると、前の公式を忘れてしまう生徒が多い。 ②図形や関数の授業には、苦手意識があり、授業に消極的な生徒が多い。	①新しい単元に入っても、前の公式を使う問題を授業の最初に何問か解いて繰り返し解かせる。 ②計算問題と同じように、見方を変えれば関数も図形も計算が大切なので、関数などは優しい問題からやらせてみる。		
理科	①実験・観察の方法・作業がメインになってしまい、予想、結果の整理、応用の時間を確保し辛い。 ②話し合い活動では論理的に考え、共有しようとする生徒がいる一方、周りの人についていだけの人がいる。 ③知識や技能がどの程度定着しているかの確認ができないまま、授業が進んでしまう。	①実験・観察での「ねらい」を明示する。予想の時間を前の授業などで確保し、目的と結果の一貫性をもたせ取り組ませる。 ②自分の考えをもってから話し合いを行い、必ず一人一回は発言できるように方法を工夫する。 ③小テスト等で生徒の習熟度を確認し、適切な支援を行う。		
社会	①資料の読み取りに課題があり、特にグラフや図からの読み取りに生徒の中で偏りがある。 ②知識の定着に偏りがあり、特に地理的な分野の既習事項の定着に個人差がある。 ③発表の場面や自分の考え、主張を記述する問題に偏りがある。	①普段の授業から、資料を読み取る時間を設け、資料に触れる機会を増やしていく。 ②復習する時間や小テストを設定し、反復的な学習を行っていく。 ③発表をする機会や聴く機会を増やしたり、グループで意見を交換したりする時間を設けていく。		
音楽	①落ち着いた態度で前向きに取り組んでいる生徒が多いが、指揮や伴奏など前に出で活動する生徒が偏っている。 ②パート練習は主体的にできるようになってきたが、取り組みに個人差がある。	①グループワークを行うなど、小集団の中で発言の機会を増やし、意見を積極的に伝えることのできる機会を増やしていく。 ②楽譜に、自己の課題や疑問を記入し、課題を明確にして目標を持ったパートと練習ができるように指導助言する。		
美術	①丁寧に制作できるが、見通しをもって取り組むことが出来ず、結果的に焦って雑な仕上がりとになってしまうことがある。 ②発想や構想したことを言語化したり、テーマに沿って解説したりすることを苦手とする生徒が多い。 ③主体的に挑戦したいと考えたことに技能が伴わず、挫折してしまうことがある。	①あらかじめ制作スケジュールを示すなどして見通しを持たせる。また、補習などを活用しながら丁寧な仕上がりを目指す。 ②ワークシートなどに言語化する際のポイントなどを明記し、机間指導の中で生徒自身の考えを整理するための支援をする。 ③具体的な制作方法や難しいと感じられるポイントをあらかじめ示し、実現可能な道筋をともに考える。		
技術	①普通教室に比べ、者が多く、生徒の気が散りがちになる。 ②個人で行う作業が多く、進度に個人差が出る。 ③一つの机に複数の生徒で学ぶ教室形態である。	①授業に関係ないものが目に入らないように、棚等を作成し、カバーする等を行う。 ②チェック表や動画の配信を行い、個に追う下準備をあらかじめ用意しておく。 ③準備、片付け・掃除等、班員での役割を明確させ、協力できる体制を整える。		
家庭	①生活経験に乏しく、基礎知識の定着に差がある。 ②幼児・高齢者の生活と家族の分野は、幼児・高齢者との接点がない生徒が多く、想像力に欠ける。 ③単元末で自己の課題を設定し、実践する学習の充実	①学習内容と実生活を結び付ける課題等を設定し、実際に経験する機会を増やす。 ②映像資料の準備、介助体験等を取り入れ幼児・高齢者の理解を図る。 ③授業の振り返りで学習カードに自己の課題や疑問を記入し、課題が設定できるようにする。実践までの計画は様々な方法を提示する。		
保健体育	①授業に対して積極的に取り組む姿勢はみられるが、今何をすべきなのかわからないまま参加している生徒もいる。 ②体力の二極化の傾向が顕著にみられる。体育の授業以外での運動時間の確保ができていない生徒が多い。	①授業のねらい、次にどう動くのか、何ができるようになれば良いのか、可視化できるようにホワイトボードを活用していく。 ②なるべく体育の時間は活動時間を確保し、運動の必要性を伝えながら気分転換にできるような運動を取り入れていく。		
外国語	①基礎的な学習内容を定着させるため、復習や学び直しが必要な生徒も多い。学習内容が多いため、どこから着手すべきか迷う生徒がいる。 ②これまで身につけてきた基礎的な内容をもとに、より多くの英語使用場面に触れて理解を深め、表現できる内容を増やしていく必要がある。	①これまでのペアやグループワークの経験をもとに、生徒同士が話し合いながら理解を深められる時間をより多く設定することで、主体的・対話的に問題解決に取り組む姿勢を育む。 生徒がそれぞれの単元において、自分が達成したい目標を設定し、それに向かって時間をかけて努力し、自己の学習を振り返って次に生かす効果的な流れをつくるための支援をする。 ②英語が苦手な生徒には、継続的なドリル練習が効果的であるため、授業の中で練習経験を積み、それが家庭学習につながっていくようにさらに支援する。 ③生徒が自分の目標に合った学びを進めているよう、タブレットの効果的な使用等を通じて課題の設定を工夫する。		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていない
で、2 学期末、年度末に評価する。